

町田市障がい者青年学級

実践報告集

2021年度 第47号



はじめに

2021年度に実施した、町田市障がい者青年学級（以下「青年学級」といいます。）事業における活動内容をまとめた「実践報告集 第47号」を刊行しました。

町田市では、おもに知的障害のある方を中心とした青年学級を1974年に開設しました。青年学級は、障がいのある青年たちが、当事者同士、あるいは地域住民や学生といった様々な人々と交流し、音楽・スポーツ・演劇・創作などの集団活動を行うことにより「生きる力・働く力」を獲得することをねらいとしています。

この報告集は、青年学級の活動の様子を一年ごとに綴っています。青年学級における多数ある活動を分野ごとに細かく分析し、各々の課題を明らかにしたうえで今後の活動の展望を語ることを目的に編集しました。編集にあたっては、日頃から活動をご支援いただいているボランティアスタッフ（以下「担当者」といいます。）の皆様にご尽力いただきました。

2021年度は、「公民館学級」・「ひかり学級」・「土曜学級」の3つの学級に158名の学級生が在籍し、学級を支えるおよそ55名の担当者とともに活動してまいりました。この一年を振り返りますと、2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、活動時間の短縮や学級日の中止を余儀なくされた年となりました。また、コロナ禍によって学級活動の参加を自粛される学級生・担当者も少なくありませんでした。

しかしながら、そのような状況においても、消毒やマスクの着用など感染症対策を講じたうえで学級活動を続け、一方では、減少する担当者を補うため近隣の大学の授業などで青年学級のPR活動も行ってまいりました。

人間関係がますます疎遠になりつつあるコロナ禍においても、障がいがあるといわれる人々が主体的に学び、社会参加し、自らの人生を肯定し、地域で生活していくために、社会教育事業としての青年学級を行ってまいります。

末筆になりましたが、事業の実施にあたり、日頃から活動をご支援いただいている担当者の皆様、関係者の皆様のご尽力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

2022年8月

町田市生涯学習センター

目 次

はじめに	3	夢と音班	99
第1部 学級活動の概要	5	虹色のパプリカ班	103
第2部 公民館学級		アマビエ班	107
第1章 コース活動		けやき坂班	111
みんなの幸せづくりコース	17	第2章 自治運営	
まあるいゆめコース	21	1 班長会	115
さくらコース	25	第3章 考察	116
くらしハッピーハッピーコース	29	第5部 地域への広がり	
さくらんぼスポーツ体づくりコース	35	第1章 サークル活動	
ゆめのつづきコース	41	1 おなべの会	121
第2章 自治運営		2 とびたつ会	122
1 班長会	51	3 スケッチルーム	124
2 つどい委員会	53	4 上を向く会～気流～	125
第3章 考察	54	第2章 若葉とそよ風のハーモニー	
第3部 ひかり学級		若葉とそよ風のハーモニー	127
第1章 コース活動		グループ活動	131
ミニ・コスモスコース	61	わかそよによせて	157
さざんかアートグループコース	67	第6部 学級を支える体制	
スポーツで伝える 2022	73	第1章 担当者会・学習会・調整会	161
ふれあって飛びたとう編集部	79	第2章 送迎検討委員会	165
第2章 自治運営		第3章 父母会	168
1 班長会	85	第7部 青年学級によせて	
2 つどい委員会	88	第1章 新人担当者として関わって	171
第3章 考察	91	第2章 障がい者青年学級の始まりの頃	175
第4部 土曜学級		資料	179
第1章 班活動			

第 1 部

2 0 2 1 年 度

学級活動の概要

1. 青年学級のねらい

青年学級開設当初は20名に満たなかった学級生も、現在は150人以上になり、3つの学級にわかれてそれぞれ独自の活動を展開しています。各学級ともに、青年学級開設当初からの目標である「生きる力・働く力の獲得」のもと、「自治」「生活づくり」「文化の創造」という3つの柱を軸に活動を行ってきました。

ここでいう3つの柱についてですが、まず「自治」とは学級生自身が活動を企画し、運営していくことを意味します。一人ひとりの学級生の意見をもとに、それを取りまとめる班長・副班長を中心とした集団活動が進められ、さらにその班長や副班長によって構成される班長会で学級全体を見渡していく、というような民主的なプロセスを重要視してきました。そして何よりも大切にしてきたことは、学級生がなにものにも束縛されることなく、一人ひとりの思いを自由に語るということです。自分自身の意見を述べる機会や経験を持ちにくかった学級生一人ひとりの主体性は、確実に培われてきました。

次に「生活づくり」です。これは活動のなかでお互いの要求、職場や家庭での喜びや哀しみなどのさまざまな思いを伝え合い、一人ひとりの生活の様子や課題を集団の場に出し、その思いや要求を集団で受け止め共有していくことです。そのことを通して、自らの生活を振り返り、自分自身の存在を肯定し、人を思いやる仲間づくり・集団づくりが行われてきました。この集団での経験が、現実の厳しい生活に向き合い、積極的に自分の生活上の困難に立ち向かっていく力になるのではないかと考えられます。

このような自治的な集団をもとに、学級生の生活要求や課題を反映させることでつくられていく活動は、既成のものではない独自の「文化の創造」を通して、具体的なかたちを与えられ、さらに深められていきます。それにより、学級生が活動のなかで実質的な主体者となり、ひいては生活場面でも主体的な存在となっていくことを目指しています。

実際の活動では、劇や音楽、絵などの様々

な創作活動を素材として取り組み、経験の幅を広げながら活動を創りだしてきました。そして、このような「文化の創造」から、学級生の要求や働くことの誇り、喜び、苦しみ、仲間への思いなど、生活実感に根ざしたものを取り入れ、オリジナルソングに代表されるような、青年学級独自の表現文化活動を作り上げ、他者へアピールする力を築きあげてきました。

このように、文化活動に積極的に関わり、「文化の創造」を担っていくことは、自らの生活を振り返り、作り上げ、学級生が主人公として人生を切り拓いていく力につながると考えられます。

「文化の創造」活動の延長として、1988年からスタートした『若葉とそよ風のハーモニーコンサート』（以下、わかそよ）も、2019年5月に19回目が開催され、またこれに類する催し物が開かれるなどしていますが、これまでの青年学級の実践から、地域に打って出たコンサートであり、そこでは長年培ってきた学級生の自治の力が大いに発揮されています。

「自治」「生活づくり」「文化の創造」の3つが歯車のように回りながら学級生たちの生活をより豊かなものにしていき、大きな力になっていくことが、これまでの実践のなかで確認されてきています。このことを踏まえ、今年度もそれぞれの学級で実践が展開されました。

2. 青年学級の概要

(1) 各学級の活動の概要

青年学級は、現在、3つの学級にわかれて月2回の活動を行っています。そのうち「公民館学級」と「ひかり学級」は日曜日、「土曜学級」は土曜日に活動しています。

2021年度は3学級あわせて学級生158名（年度当初時点での在籍者数）、担当者55名（年度末時点で担当者または当日担当者として活動に関わっていたボランティアの人数）で活動を行いました。一年間の活動は6月の開級式から、秋の日帰り旅行などを挟んで、3月の成果発表会までの間に公民館・ひ

かり学級は原則として毎月第1・第3日曜日に、土曜学級は毎月第2・第4土曜日に行い、それぞれの学級で年14～15回の活動を行いました。また、活動体制としては、土曜学級が班体制、公民館学級とひかり学級がコース制をとりました。

（２）活動日の大まかな流れ

タイムテーブルは3学級ともに概ね次のとおりですが2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で一部変則的に行いました。

10時～	朝のつどい
10時30分～	コース・班活動 (途中、昼食を挟む)
15時30分～	帰りのつどい
16時	終了
16時～	班長会など

班長・副班長は、コースや班をまとめると共に、「班長会」に出席し、他のコースや班との連絡を取り合って、各学級全体の活動について話し合い、学級の自治活動を行いました。他にも、公民館学級では、朝夕のつどいについて話し合う「つどい委員会」が帰りのつどいの後に行われました。土曜学級では、班毎に交代制でつどいについて話し合われました。

（３）一年間の学級活動の流れ

6月	開級式
7～2月	月2回の学級活動 (8月は夏休み、9～11月に日帰り旅行あり)
2～3月	成果発表会

3. 青年学級のこれまでの歩み

1974年度に開設された青年学級は体制面に着目すると、その歴史の中に大きな4つの節目をとらえることができます。すなわち、コース制の始まり(1985年)、ひかり学級の発足(1991年)、土曜学級の発足(1997年)、とびたつ会の発足(2004年)です。そしてこの節目を境にして、5つの時期に分けることが可能となります。

（１）青年学級の発足と実践から生まれた3つの柱

【1974年度～1984年度】

第一の時期は、青年学級の実践の方向性を模索する中から実践の中核となる3つの柱を確立した時期と言えます。この3つの柱とは、素材として表現活動を伴う文化的な創造活動を重視すること、集団のかたちとして自治的な集団をめざすこと、主題としてそれぞれの生活を活動の中心にすえることです。

こうした3つの柱は、それぞれ、劇づくりを通じた仲間づくりをめざした時期(1974年～1977年)、自主的な活動を重視した時期(1978年～1980年)、生活を見つめ直した時期(1981年～1984年)という3つの時期に対応しており、実践の中から生み出されてきた柱そのものと言ってよいでしょう。また、発足当初20名だった学級生の数は、1984年度には63名になっていました。

（２）コース制のはじまりとその発展の時期

【1985年度～1990年度】

第二の時期は、コース制の実施によって始まる時期ですが、第一の時期の成果を受けて、内容別のコース活動に分かれ、それぞれのコースごとにその内容をじっくり深めていく中で、生活づくりをめざすこととなりました。

この時期の生活づくりというねらいが具体的な成果となってあらわれた例に、「わかそよ」が産声を上げたことが挙げられるでしょう。それぞれの生活の中で感じている想いを歌に託して地域に向けて発信することを通じ、一人ひとりの新たな生活の創造が始まったと言えます。

また、こうした活動の中から、全国障害者問題研究会の全国大会に参加したり、パリで開催された国際会議に参加したりする学級生が現れるようにもなってきました。

生活づくりという目標のもと、地域にアピールしていく活動は、いろいろなところで実を結び始めたと言ってよいと思います。

この間、参加希望者は増加を続け、1990年度には学級生が99名を数えるようになりました。

(3) ひかり学級への分級による2学級体制の時期

【1991年度～1996年度】

第三の時期は、学級生の増加という事態に対応するためにひかり学級の誕生から始まる時期です。

学級生が増加する中で、言語的コミュニケーションが難しく、多くの介助を必要とする障がいの重い学級生の姿も見られるようになりました。そうした生活上の困難を抱えた学級生がいる一方で、問題が差し迫っていない学級生も少なからずいるという状況は、学級生の多様化も意味していました。

こうした状況下では、学級全体としての共通の目標を以前のように維持することは、しだいに困難になってきました。しかしながら、それは一方で今までの流れを継承しつつ、多様な要求に応える実践を繰り返してきた時期であると言えるでしょう。

社会への大切なアピールの場「わかそよ」も、青年学級の大規模化のため、隔年開催となりましたが、ミュージカルという新しい表現を盛り込みながら発展を遂げています。またこの時期、海外研修の機会を与えられる学級生が何名か生まれました。

(4) 土曜学級の誕生による3学級体制の時期

【1997年度～2003年度】

第四の時期は、土曜学級の誕生によって3学級の体制が始まった時期です。土曜学級は、最初、休日の小学校の校舎を借りるかたちで発足しました。活動の際、車いすの方が一部利用できない場所がありましたが、2002年に公民館が現在のビルに移ってからは、公民館で活動できるようになりました。「自治」「生活づくり」「文化の創造」の3つの柱を土台にしながらも、公民館学級、ひかり学級、土曜学級のそれぞれが独自の活動を展開するようになりました。

この時期、公民館学級の学級生である高坂茂さんが、日本で最初の本人活動の会「さくら会」結成の中心メンバーとなり、町田の青年学級にも本人活動の成果を持ち帰ろうという思いで活動を始めましたが、2000年3月に志し半ばで職場の事故で亡くなるという大変大きな出来事がありました。「町田にも本人活動を」という動きは、こうした中で芽生え始め、高坂さん亡き後は、その遺志を引き継ぐかたちでいろいろな試みがなされ、とびたつ会の発足へとつながる流れを作り出しました。

(5) とびたつ会の誕生 ～青年の活躍の拡がり

【2004年度～現在】

第五の時期は、青年学級からとびたつ会が生まれ、市主催事業としての青年学級と自主サークルとしてのとびたつ会が、並び立つ体制を開始した時期です。とびたつ会は、形式的には、青年学級とは別の組織ですが、青年学級の活動を通して本人活動の重要性を自覚したメンバーによる会です。しかし、とびたつ会にも青年学級に参加した経験のない青年が加わるなど、次第に独立した活動をするようになりましたが、学級の終わった後の交流や学級行事などへのとびたつ会メンバーの参加、「わかそよ」や、それに類する催し物の共同開催など、両者は深い関係を築いてきました。

また、とびたつ会の発足によるメンバーの移動が、結果的に学級生の受け入れ能力を超えてしまった青年学級に新たなメンバーを受け入れる余地をもたらしました。しかし、短期的には学級をひっぱっていくリーダー的存在が抜けることを意味しており、学級活動に影響をもたらすことになりました。しかし学級生の中からは新しくリーダーシップを発揮する存在が現れ始め、そのリーダーシップのもとで新しい活動の展開が見られるようになりました。

学級では表現活動を通じて主体性を獲得する場面が多くあります。例えば実際に歌うことはできなくても学級ソングの作詞をし

て発表の舞台に上がるという経験を通じて主体性を獲得する青年たちが出てきました。

こうした青年たちが表舞台に出ることで、学級の雰囲気にも変化の兆しが生まれています。

4. 3 学級に関わる今後の課題

青年学級の抱える課題として、新人学級生の継続的な受け入れの問題があります。青年学級は、当初 20 名弱の人数からスタートしました。担当者不足などの理由から 2001 年から新人学級生を受け入れられない状況が発生していましたが、2010 年からは募集を再開しています。2021 年度には若干名の募集に対し、4 名の応募がありましたが、全員を受け入れることができました。

現在の 3 学級体制（公民館学級、ひかり学級、土曜学級）で、どこまでの学級生を受け入れることができるか、規模の面からの検討も必要となっています。

そして、担当者体制が厳しい状況であることに変わりありません。現在の担当者募集方法（「広報まちだ」での募集記事、地域の自治会等を通じての担当者募集のビラの配布やポスターの掲示、近隣の大学・専門学校へのポスター掲示及び授業やガイダンス等での担当者募集の説明など）に加え、大学のボランティアサークル等との連携やボランティア講座の活用など、担当者を継続的に安定して確保する方策が模索されてきました。

また、学級に参加する青年の状況も大きく変化しつつあります。障がい者施策の影響もあり学級生を取り巻く生活環境や就労状況もここ数年大きな変化がでてきています。新しく参加している学級生でも一般企業で働く人がいる一方で、高度なケアが必要な人も増えています。

長年学級に参加してきた青年も、グループホームや通勤寮、生活寮を利用し、仕事に就いて得られた給料の使い方の訓練を受けたり、自らの将来について考えたりするなど、自立にむけて活動するようになってきました。特にここ数年、市内にもグループホーム

が増え、自宅からグループホームへ移る青年も増えています。現時点ではグループホームへ移ったことにより青年学級に通えなくなるということはありませんが、学級生の置かれている状況を把握することがこれまで以上に重要となってきています。

これらの青年学級の将来像や、青年を取り巻く状況の変化等の課題について、生涯学習センター職員や担当者、家族、支援者、学級生と一緒に考えていき、その中で本来の青年学級の意味を再確認し、これからの発展について将来的な展望を持っていくことが、今後の大きな課題となっています。

体制面の語句の説明

青年……発足当初より、学校を卒業して社会に出た知的障がい者の社会教育の場は「青年学級」という名称で活動が進められ、社会的にも認知され今日にいたっています。その経過の中で学級生に対して青年という呼び方が定着しています。実際には青年期を越えた学級生が多数をしめるわけですが、その活動の若々しさなどもあって、違和感をあまり覚えることなく使われてきたと言えます。

担当者……青年を支援し、共に活動する人。参加資格は18歳以上の人。学級日の運営だけではなく、担当者会や総括会議への参加、学級ニュースの作成、実践報告集の校正作業なども活動に含まれています。

当日担当者……仕事や授業などの都合により、担当者会への参加が難しいため、学級日のみ参加する担当者のこと。(役割は担当者と同様)

コース・班制……青年学級での自治活動を展開するための、10～20人の基礎集団。やりたいこと(音楽・料理・スポーツ・工作など)を参加者が選び、希望別に分かれた集団のことです。

つどい……コース・班活動に入る前に、学級参加者全員が集まって歌をうたったり、見学者の紹介をしたり、近況報告をする場。朝と帰りに行っています。

成果発表会……年度の終わりに、1年間の活動の成果を発表する場。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあったが3学級とも生涯学習センターで行ないました。

青年学級を語る会……学級生が年度の初めに学級活動について話し合う場。前年度の反省と新年度の活動について学級ごとに話し合いを行なっています。

とびたつ会……青年学級よりも、より青年が主体的に活動することをめざした本人活動の会で、発展学級としての性格も併せもっています。2004年に発足。

担当者会……青年学級に参加する担当者が集まって、週に1回開かれる会議で、学級ごとに行っています。月2回の活動

の準備や反省、活動やその他の場面での学級生との関わりの中で青年が表現する中から、青年の求めていることは何なのか、その実現に向けてどうしたらよいか、それをどのように今後につなげていくのかを話し合います。各学級の担当者会で2名程度の「学級主事」が選出され、会の進行をしています。

調整会……担当者から選ばれた学級主事と生涯学習センター職員で構成。青年学級を実施するにあたっての全体的な条件整備や調整を行い、担当者会に提示します。また学級間の情報交換・共有を図る会です。

父母会……青年の家族が、青年たちが現在抱える問題や将来の生活に抱える不安などを改善・解消するために設けている話し合いの場、及びその集団です。

送迎検討委員会……各学級から選出された数名の担当者(送迎委員)で構成される委員会。青年の通級に欠かせない送迎の保障について話し合い、取り組んでいます。

将来構想検討委員会……生涯学習センター長、生涯学習センター職員、各学級から1～3名程度ずつ代表として選出された担当者(将来構想検討委員)、とびたつ会支援者で構成される委員会。青年学級の中長期的な将来像を検討するために組織されていましたが、2012年度以降は開催されていません。

若葉とそよ風のハーモニー……青年学級の活動から生まれた学級ソングや劇を社会に向けて発信していく場として、1988年から町田市民ホールで行っている実行委員会形式のコンサートです。活動の中では、“わかそよ”と略されます。

活動内容の語句の説明

学級ソング……学級独自で作られ歌われる歌のこと。青年のことばや姿、口ずさんだフレーズなどを元に歌としてまとめています。こうした学級ソングはつどいの他、コース活動の中、行事などの場で一緒に歌うことで共有され、学級の一体

感と盛り上がりの形成に一役買っています。既製の大量文化におけるポピュラーな曲ではなく、障がいを持つ青年たちの生活実感や思いを反映したものです。それは、民衆文化としての自分たちの「文化の創造」という青年学級で大事にされてきたテーマを象徴しています。

素材……実際の学習活動におけるテーマや取り組みのもとになるもの。具体的には青年から直接的・間接的に出される要求や生活状況などで、それを共有することで活動を展開しています。

思い起こし・近況報告……活動での話し合いの基本となるもの。青年学級での話し合いは多様な青年が参加しているため、青年の発言をまとめるだけではなく、意思表示を確認してコース・班全体で共有する作業が必要になってきます。青年一人ひとりの思いを共有するために活動の基本的なことを話したり、個人として話しやすい身の回りのことが話題にされたりしています。

作品づくり……学級では一人ひとりが絵を描いたり、ねん土を作ったり、またコース・班全体で作品づくりに取り組んでいます。いわゆる工作的なものだけではなく、作った学級ソングをレコーディングでCDにまとめたり、作文や絵画を蓄積して文集にまとめたりすること、調理活動なども含まれます。

表現活動……青年学級では二つの使い方をする活動で、一つは歌や劇といったコース・班で通常行われている「パフォーマンス活動そのもの」、もう一つは、主に成果発表会やクリスマス会など全体で行う催し物で作文を朗読したり、作った歌を披露したり、外出で調べてきたことを発表したり等、「活動内容そのものの紹介のための二次的な表現活動」との二つに分けられます。

いずれにしても成果発表会という一年の締めくくりが大きな目標になっており、成果発表会に向けて練習を重ねたり、発表のためにこれまでの活動を振り返り表現としてまとめあげたりすることで、単

に青年の内部表出だけではなく、コース・班全体の活動を外在化するという意義もあります。

本人活動……障がい当事者が決定権をもったグループ活動のこと。日本における本格的な本人活動の芽は、1991年の育成会全国大会本人分科会にあると言われていています。この時結成された「さくら会」には、町田からも高坂茂さんという青年学級の先輩も参加されました。

それまでは、多くの場面で能力がないとされ、意見表明や自己決定等の機会が剥奪される傾向にあった知的障がいのある人たちが、「自分たちのことは自分たちで考えよう」と自らが社会変革の担い手であることを自覚し、学習や行動をする活動に取り組み始めました。実際の活動は幅広く、福祉の制度や自分たちの権利についての学習活動や、レクリエーションなどを内容としています。

スイッチ・指文字・筆談……数年前より重度の肢体不自由や知的障がいのため、あるいはいわゆる自閉症などのために、言語的コミュニケーションが苦手とされる青年を中心に、スイッチパソコンで気持ちを話す方法が取り入れられてきました。現在では、パソコン自体は使用せず、通訳者が青年の体の一部に触れ、五十音を発音しながら一文字ずつ言葉を選び出していく「スイッチ」や通訳者が青年の一方の手（指）に手を添え、通訳者の掌に文字を書いていく「指文字」、青年が持つペンに手を添えて文字を書く「筆談」などがあり、コミュニケーション方法も多様化しています。また、言語でコミュニケーションをとる青年も思いや意見を語る際、補足的にこれらを使う青年も増えてきています。

また、パニックのような行動を見せた青年に対して気持ちを聞き、そのときの本人の考えや反応などを理解し、周囲の対応や受容につなげる実践がされています（詳細は2008年実践報告集の特集を参照）。

2021年度障がい者青年学級(学級実施日)			
回	月 日	活 動 内 容 (活 動 場 所)	
	4.4 日	公民館学級・ひかり学級 青年学級を語る会(生涯セ)	午前10時～午後0時
	4.10 土	土曜学級 青年学級を語る会(生涯セ)	午後1時半～3時半
1	6.6 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時～4時
1	6.6 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午後1時～4時
1	6.12 土	土曜学級 開級式(生涯セ)	午後1時半～3時半
2	6.20 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時半
2	6.20 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午後0時半～4時
2	6.26 土	土曜学級(生涯セ)	午前10時半～午後3時半
3	7.4 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
3	7.4 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
3	7.10 土	土曜学級(生涯セ)	午前10時～午後0時半
4	7.18 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
4	7.18 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午後0時半～4時
	7.24 土	土曜学級(生涯セ)	コロナの影響で中止
5	9.5 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
5	9.5 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
	9.11 土	土曜学級(生涯セ)	コロナの影響で中止
6	9.19 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
6	9.19 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午後0時半～4時
	9.25 土	土曜学級(生涯セ)	コロナの影響で中止
7	10.3 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
4	10.9 土	土曜学級(生涯セ)	午後0時半～3時半
7	10.17 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
	11.6 土	公民館学級 合宿(大地沢青少年センター)	コロナの影響で中止
8	11.7 日	公民館学級(生涯セ)	午前10時～午後4時
8	10.17 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
5	11.13 土	土曜学級 日帰り(小田原方面)	午前9時半～午後4時
9	11.21 日	公民館学級(生涯セ)	午前10時～午後4時
9	11.21 日	ひかり学級 日帰り(こどもの国)	午前9時～午後5時
6	11.27 土	土曜学級(生涯セ)	午前10時半～午後3時半
10	12.5 日	公民館学級(生涯セ)	午前10時～午後4時
10	12.5 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
7	12.11 土	土曜学級(生涯セ)	午前10時半～午後3時半
11	12.19 日	公民館学級(生涯セ)	午前10時～午後4時
11	12.19 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
8	12.25 土	土曜学級(生涯セ)	午前10時半～午後3時半
	1.15 土	土曜学級(生涯セ)	コロナの影響で中止
12	1.16 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
12	1.16 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
	1.29 土	土曜学級(生涯セ)	コロナの影響で中止
13	1.30 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
13	1.30 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
	2.12 土	土曜学級(生涯セ)	コロナの影響で中止
14	2.13 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
14	2.20 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
	2.26 土	土曜学級(生涯セ)	コロナの影響で中止
15	2.27 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
15	2.27 日	公民館学級 成果発表会(生涯セ)	午後1時半～4時
9	3.12 土	土曜学級 成果発表会(生涯セ)	午後0時半～4時
16	3.13 日	ひかり学級 成果発表会(生涯セ)	午前10時～午後4時

学級名		活動単位		自治活動	内容
日曜学級	公民館学級	コース制	◆みんなの幸せ づくりコース	班長会	各コースの班長・副班長とそれを支援する担当で構成される学級活動後の会議。年間行事についての調整や班長会ニュースの作成を行っている。
			◆まあるいゆめコース ◆さくらコース ◆ハッピーハッピー くらしコース ◆さくらんぼスポーツ 体づくりコース ◆ゆめのつづきコース	つどい 委員	有志で集まった学級生と担当者数人で構成し、朝夕のつどいについて企画・運営を行う。また合宿・クリスマス会・成果発表会は班長会と合同で運営していた。
	◆ミニーコスモスコース ◆さざんかアート グループコース ◆スポーツで伝える 2022 コース ◆ふれあって飛びたとう 編集部コース		班長会	ひかり学級全体について話し合いをする会議。 合宿・クリスマス会・成果発表会などの行事についてと、コースからの連絡を行った。	
土曜学級		班制	◆夢と音班 ◆虹色のパプリカ班 ◆アマビエ班 ◆けやき坂班	班長会	各班の班長・副班長とそれを支援する担当で構成され、成果発表会等の行事や、土曜学級全体について話し合う会議。